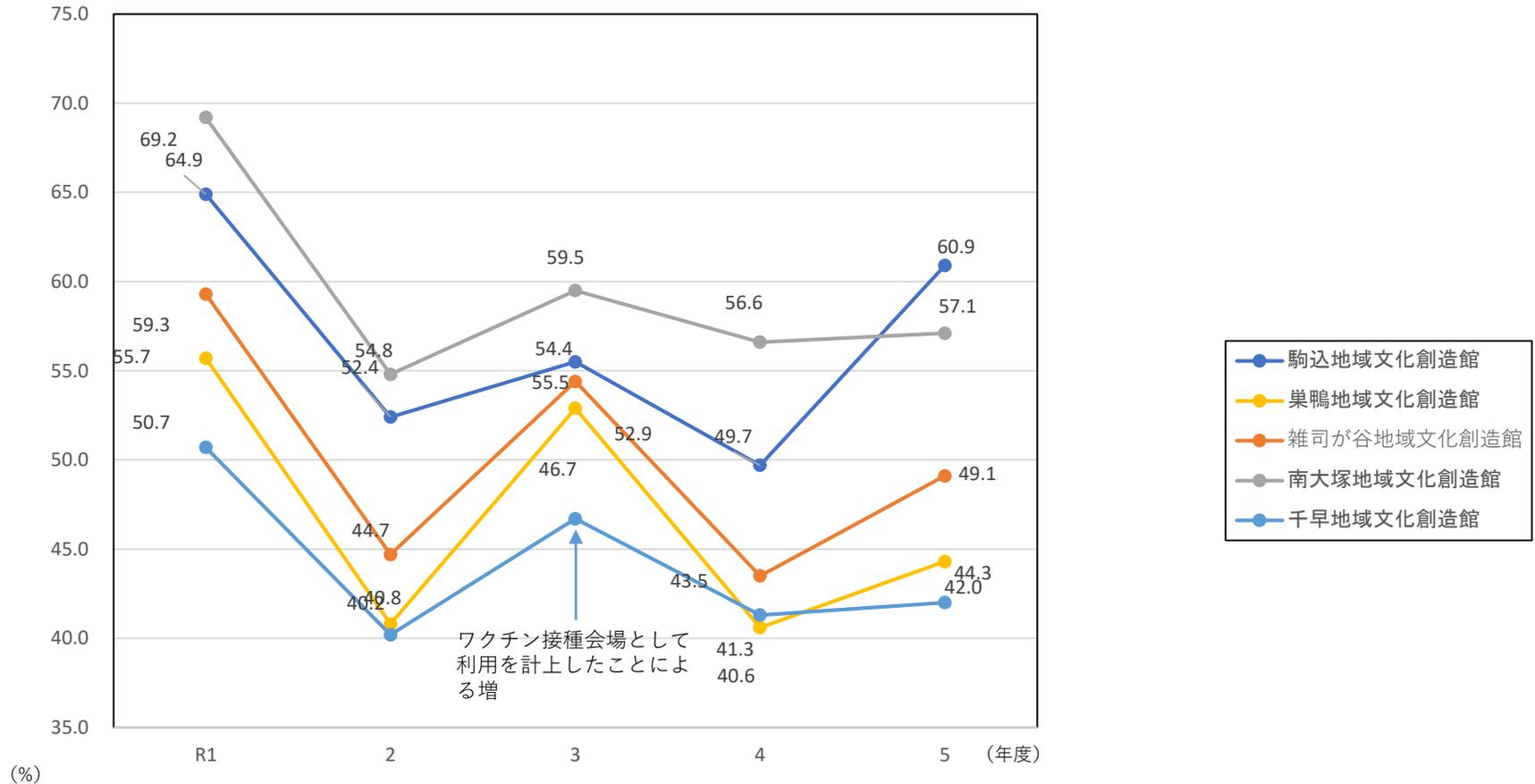


# 豊島区生涯学習ビジョン改定に向けての 現状



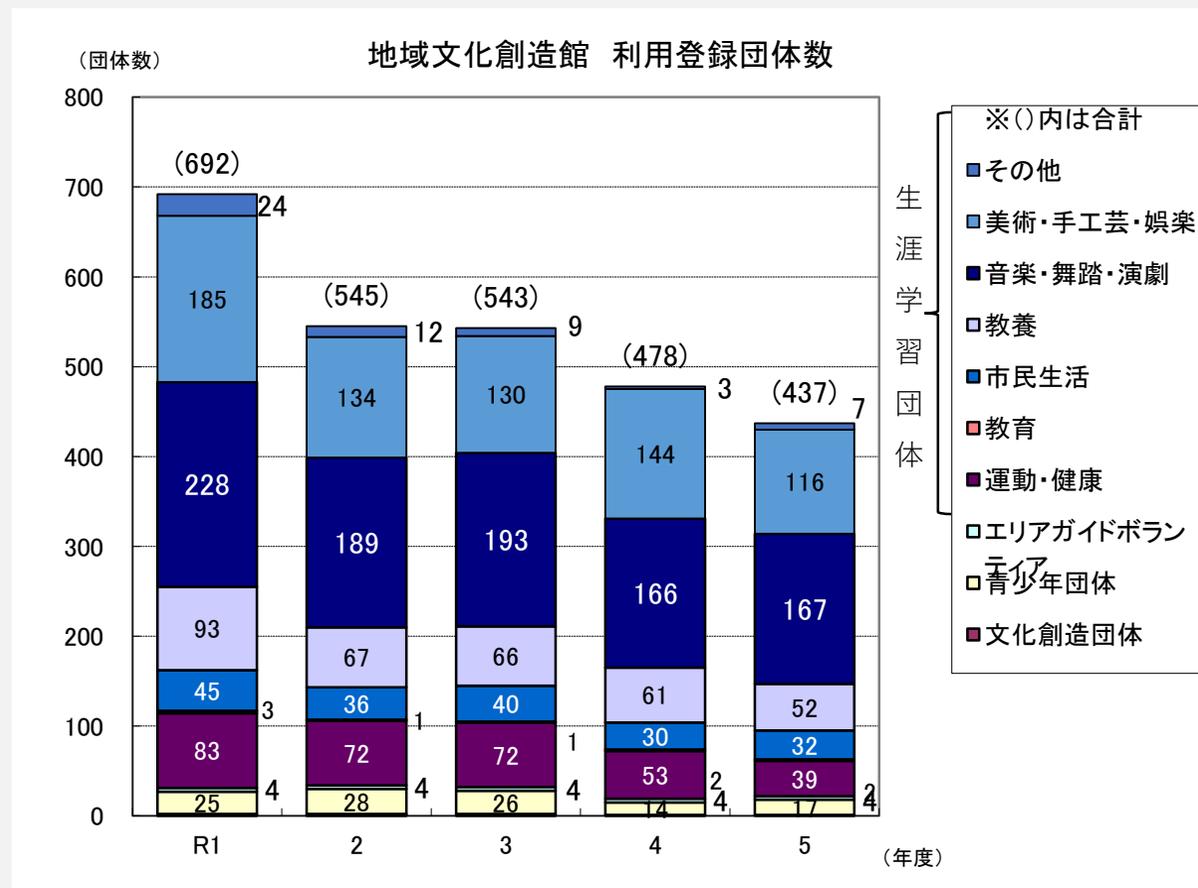
地域文化創造館の施設利用率



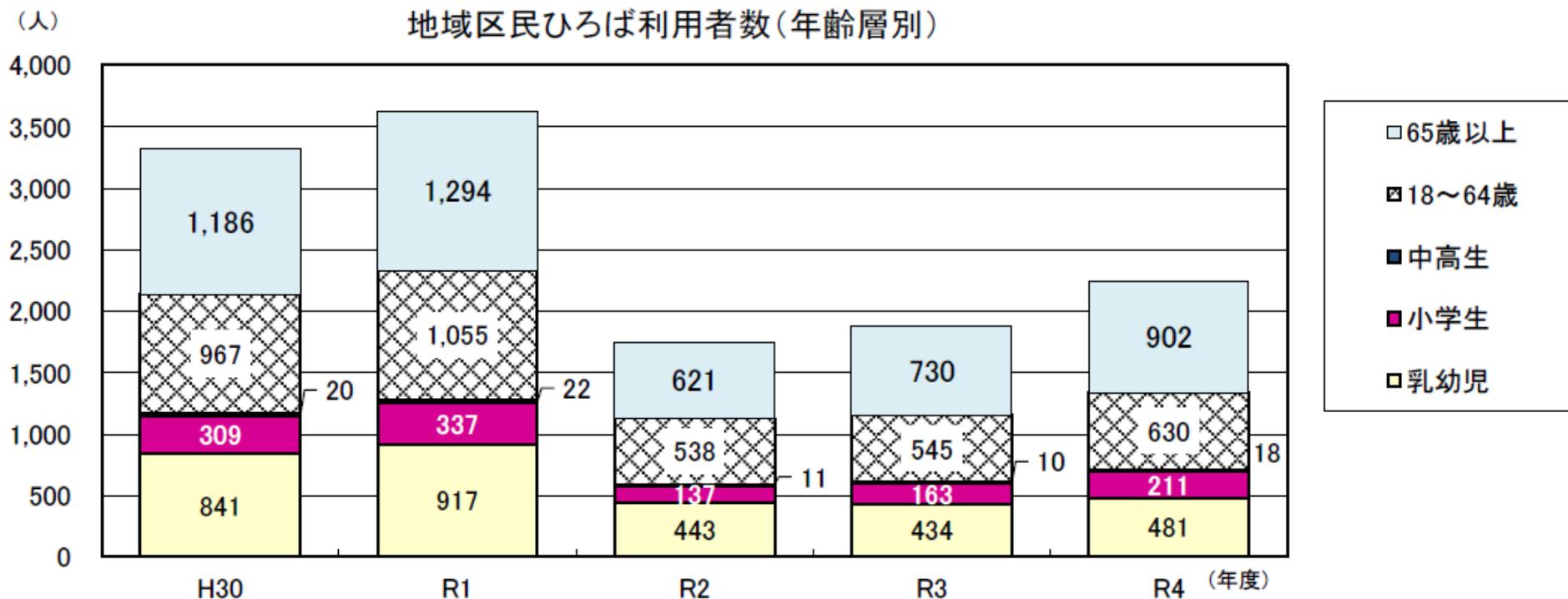
出典：公益財団法人としま未来文化財団令和元年度事業報告書  
 ※《利用率》利用件数／施設利用可能数

✓ コロナ禍で減少した利用率は回復傾向にあるが、コロナ禍前の数値までは回復していない。

団体の種別		R1	R2	R3	R4	R5
文化創造団体		2	2	2	1	1
青少年団体		25	28	26	14	17
エリアガイドボランティア		4	4	4	4	4
生涯学習団体		661	511	511	459	415
運動・健康		83	72	72	53	39
教育		3	1	1	2	2
市民生活		45	36	40	30	32
教養		93	67	66	61	52
音楽・舞踏・演劇		228	189	193	166	167
美術・手工芸・娯楽		185	134	130	144	116
その他		24	12	9	3	7
※ ( ) 内は合計		(692)	(545)	(543)	(478)	(437)



✓ 地域文化創造館に登録している生涯学習団体は減少傾向にある。

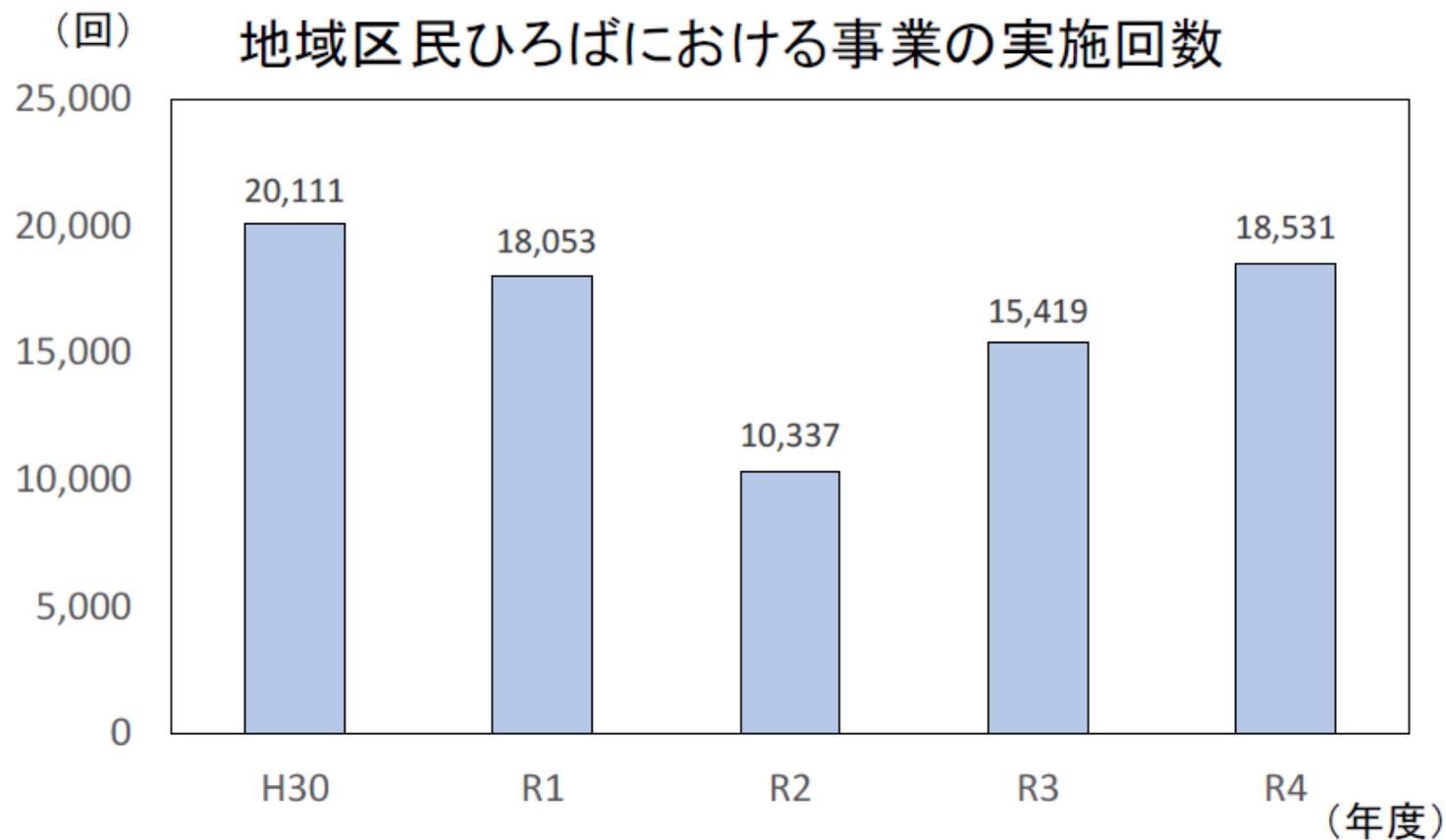


出典:地域区民ひろば課作成資料

※1地区ひと月あたり利用者数(年齢層別利用者総数÷運営延べ月数÷地区数)

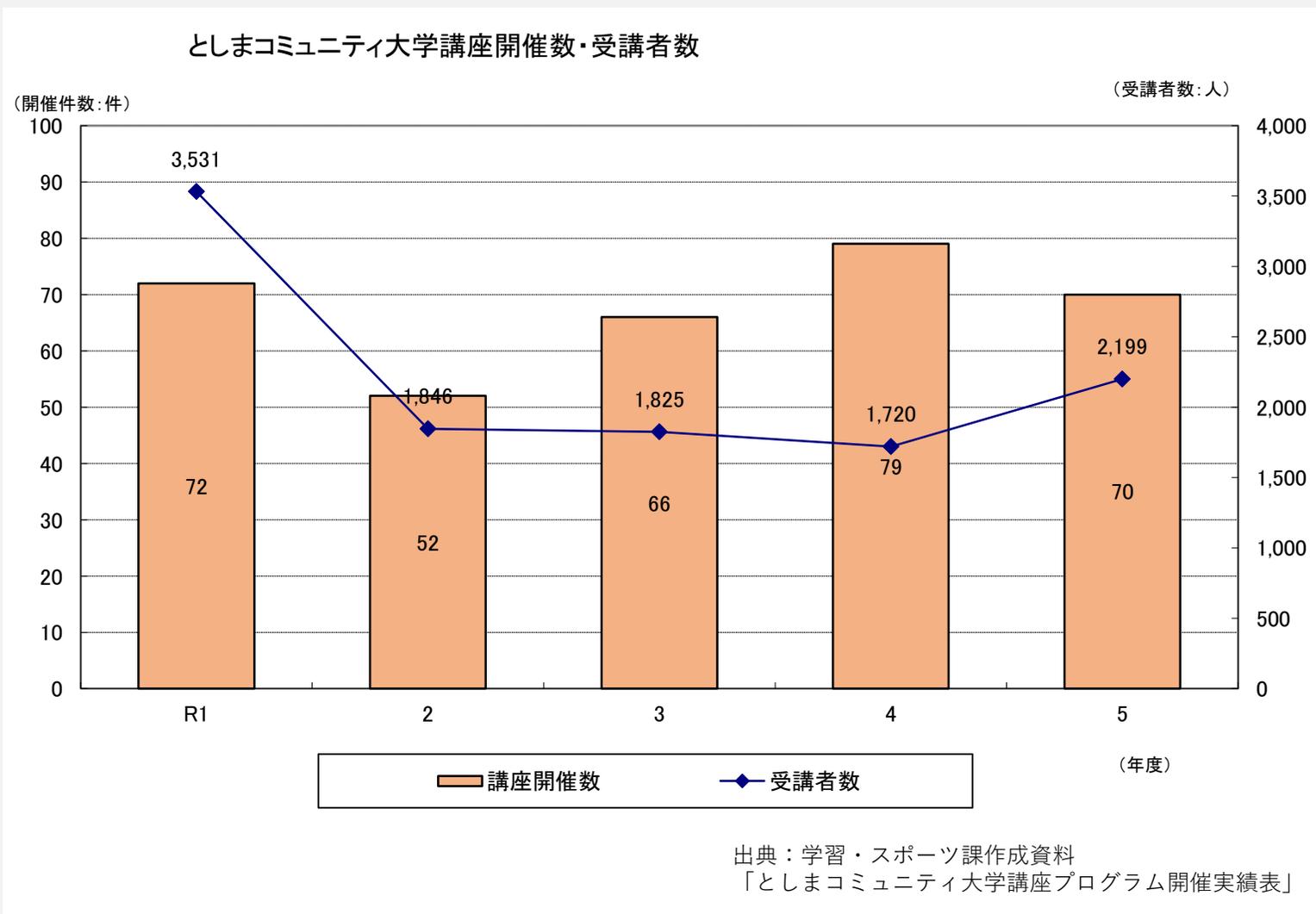
※四捨五入の影響により、「5. 地域区民ひろば施設利用者数」の数値と異なる場合がある。

- ✓ 平成30年度新たに9地区で日曜日の開館を実施。これにより、すべての地区で日曜日を開館
- ✓ 年齢別利用者数は、乳幼児と子育て世代を含む大人(18～64歳)の利用者が増加



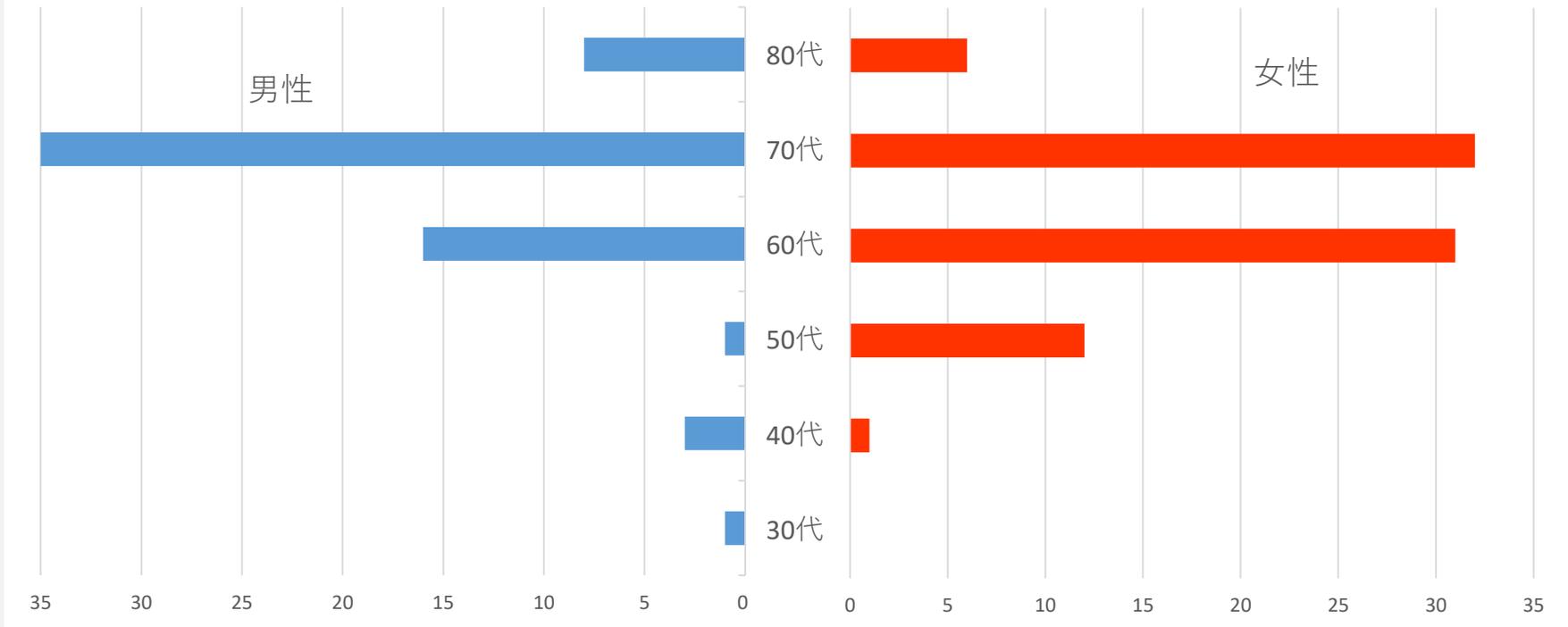
出典：地域区民ひろば課作成資料

✓ コロナ禍で減少、その後回復傾向



✓ 感染対策のため1回あたりの講座の定員を減らして開催していたが、令和5年度より通常の定員に戻して開催した。

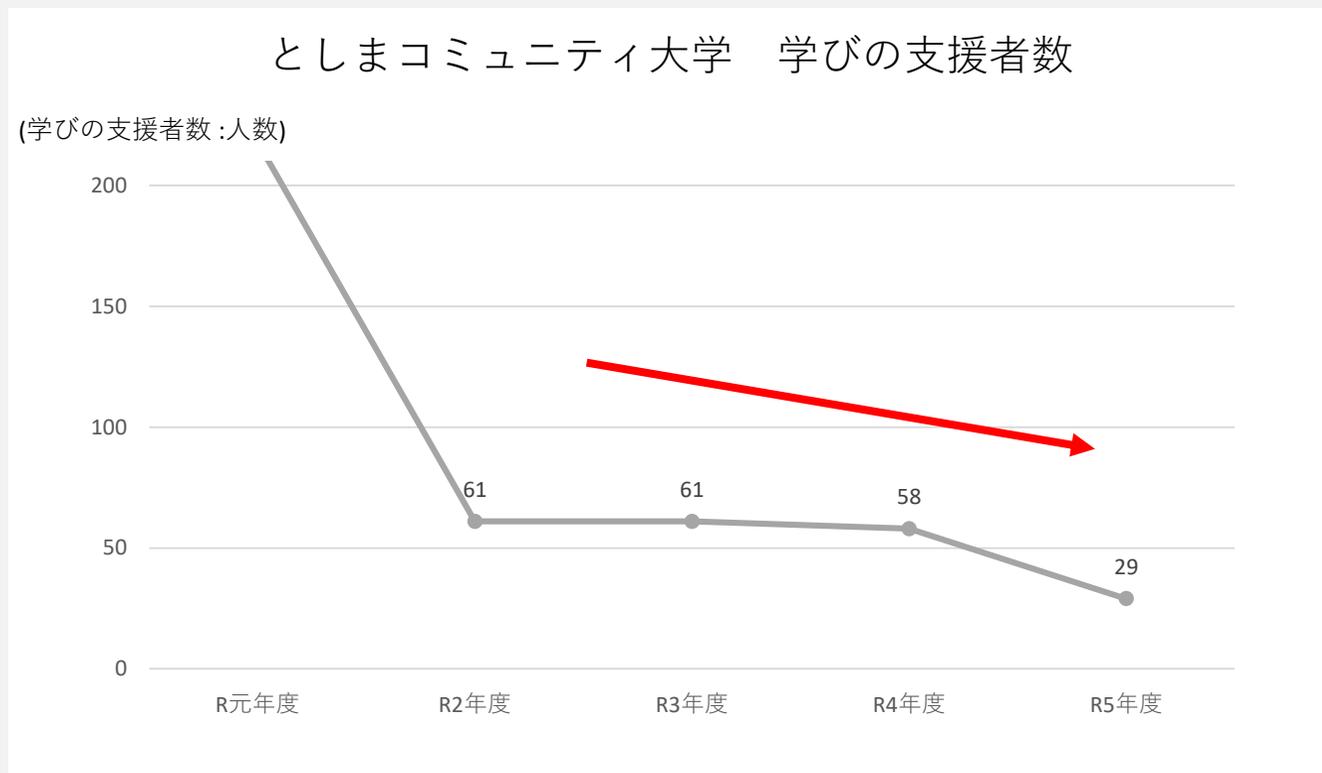
としまコミュニティ大学マナビト生 年齢別人数



(マナビト生:人数)

出典：学習・スポーツ課作成資料

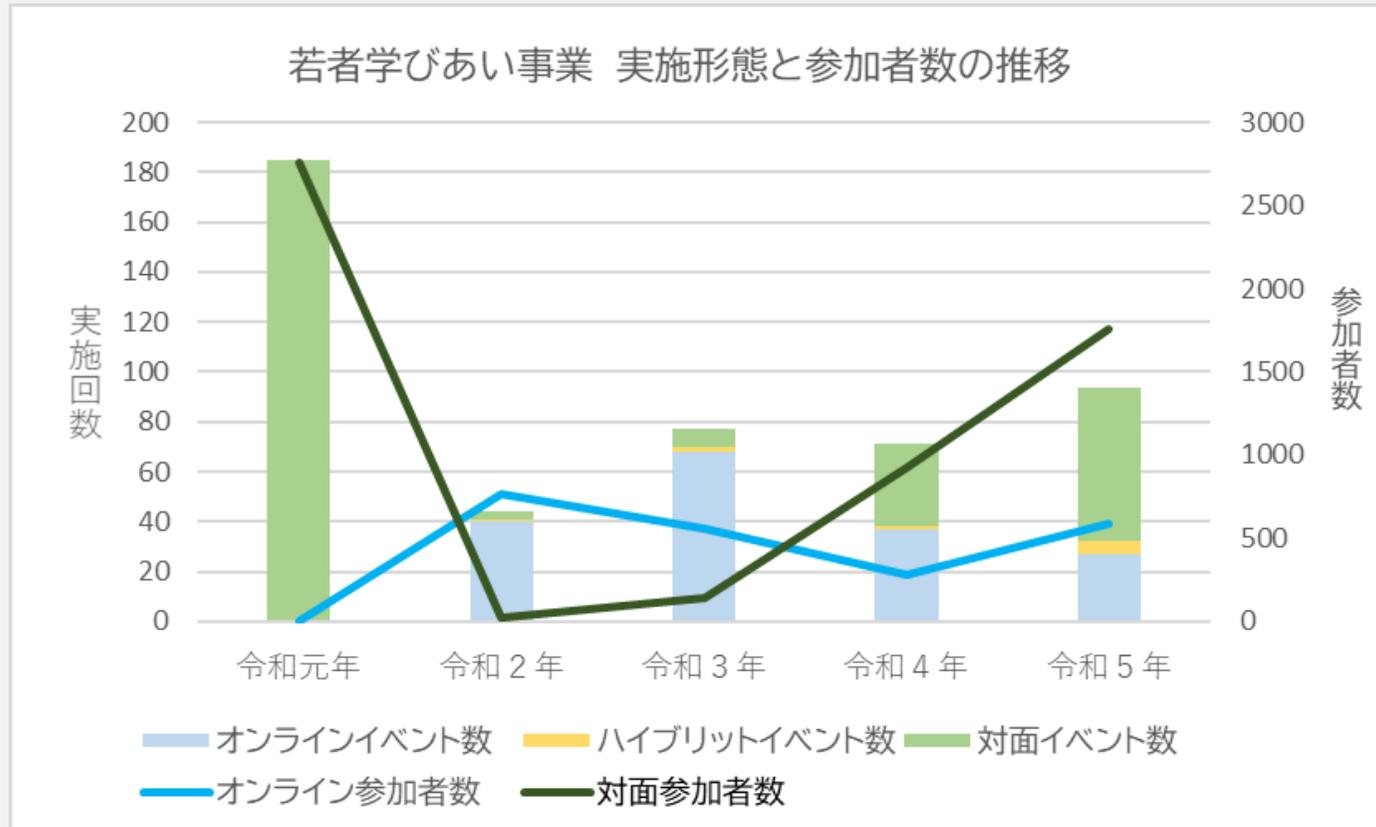
- ✓ 男女ともに70代が最も多く、次いで60代が多い。



出典：学習・スポーツ課作成資料

※学びの支援者数とは…としまコミュニティ大学のマナビト生のうち、受講者としてだけでなく、運営の補助を担っている方

- ✓ コロナ禍で低迷して以降、回復せず減少傾向にある。

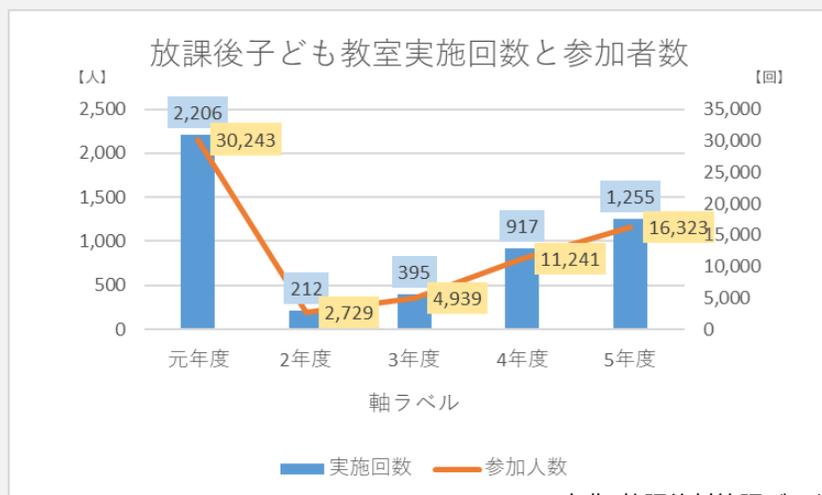


- ✓ コロナ禍においては、オンラインでの事業を行い、オンラインで参加する方が一時増加した。  
その後は徐々に回復傾向にあるが、オンラインだけでなく対面での**若者の学びの支援**の需要が増している。

## ○放課後子ども教室実施状況

子どもたちの放課後の居場所として、教育委員会事務局放課後対策課で「放課後子ども教室」を実施している。

地域の皆さんのこれまでの知識、経験をフル活用して子供を見守りながら行っていることが特長。



出典:放課後対策課データより

【地域コーディネーター懇談会やスタッフ研修から出た意見】

- ・近隣のコーディネーターとの情報交換会などがあるとよい。
- ・沢山の教室をやっていたが、スタッフの高齢化が課題。
- ・外国籍児童が増加しており、ますます対応の必要性が高まっている。
- ・指導者向けの研修の場が欲しい。

- ✓ 地域での人材不足や情報の共有、外国籍児童への対応が求められている。

## ○部活動の地域移行



豊島区では令和5年5月より、部活動地域連携推進協議会を立ち上げ、中学生の放課後の充実を図ることを目的として、持続可能な部活動のあり方について検討を進めています。

少子化や教員の負担等が部活動存続の課題となっていますが、生徒たちがスポーツや文化に触れる機会を失わないよう、生涯にわたって必要となる経験を積めるよう、豊島区は部活動の改革を推進していきます。

令和5年度は、これまで要望があったものの設立できなかった部活動に着目し、モデル実施を行います。専門の技術を持ったの指導に着目いただき、みるご参加ください。

### 運動部

#### ダンス部

プロのダンス講師による、基本からのダンス指導。

さまざまなダンススタイルの基本を学びながら、自分らしさを発揮していこう!

### 文化部

#### プログラミング部(ドローン)

タブレットを使ったプログラミングで、ドローンを飛ばしてみよう!

JUIDA 認定インストラクターの有資格者による安全なプログラミング。

の基礎を学んで、楽しくカッコよくドローン飛行を演出しよう!

#### 音楽部

音大学生とコラボレーション予定 たいだい準備中です!

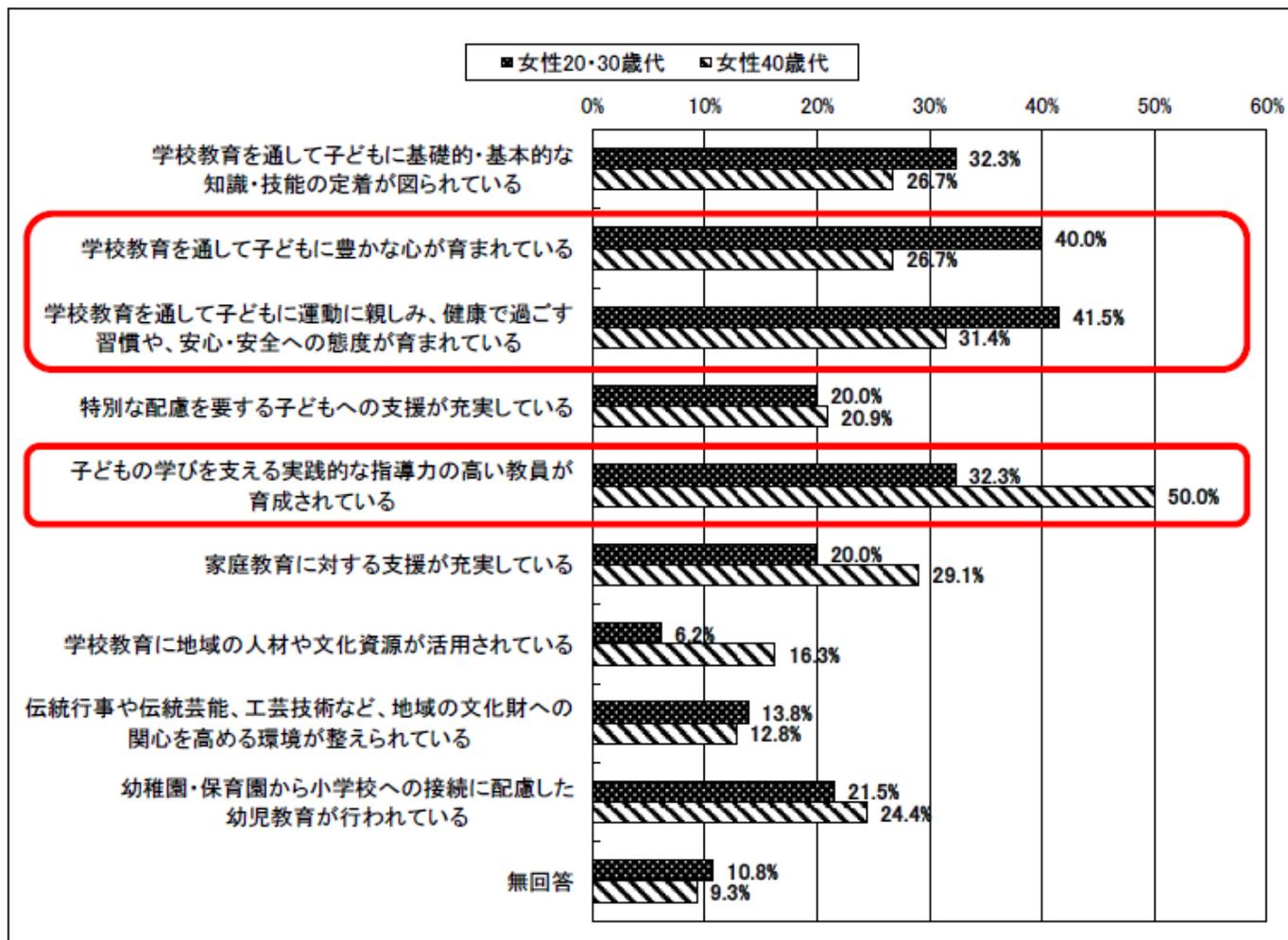
※ 詳しくは、それぞれのご案内チラシをご確認ください

問合せ先 豊島区教育課 放課後対策課 中学生放課後対策グループ ☎03-4566-2778



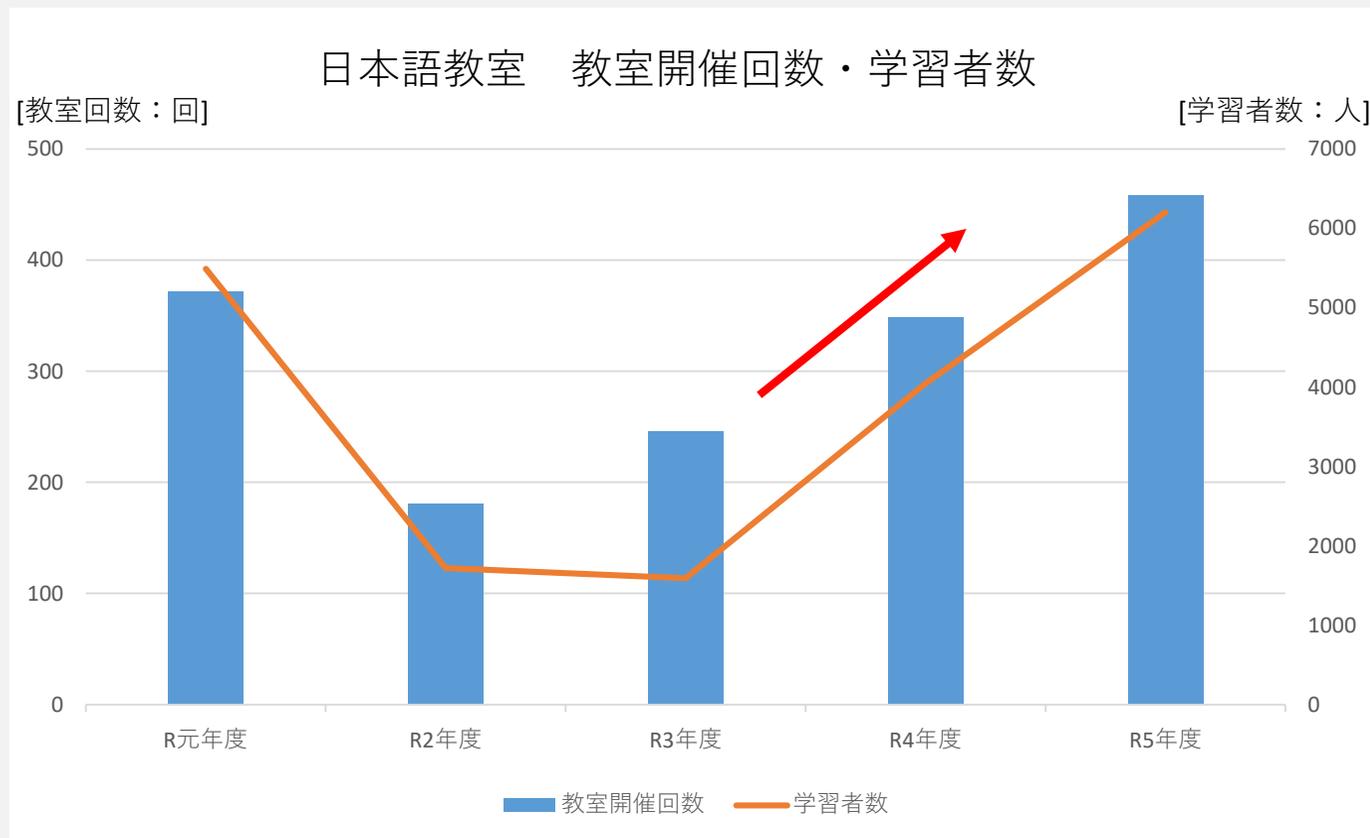
図表2-4-4 「女性の20・30歳代及び40歳代で中学生以下の子どもがいる」  
回答者と「教育」に関する設問のクロス集計結果（1/2）

※太線は、相対的に回答率が高かった選択肢を示す。



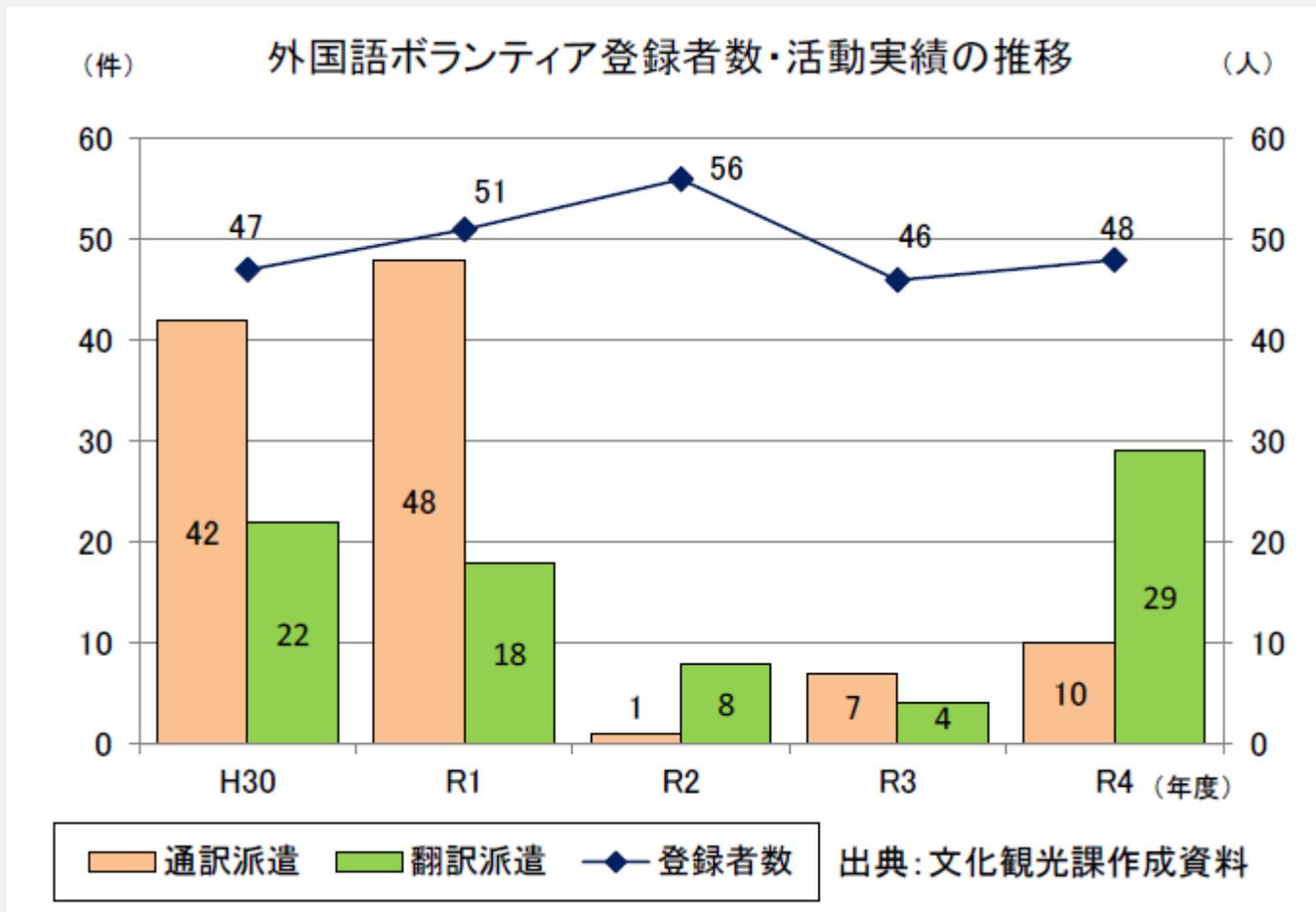
出展：令和5年度協働のまちづくりに関する区民意識調査

✓ 家庭教育に対する支援が充実していると回答する子育て中の女性の割合が低い。



出典：学習・スポーツ課作成資料

✓ コロナ渦で一時低迷したが、その後増加の一途をたどり、コロナ渦前を超える教室開催数・学習者数となっている。

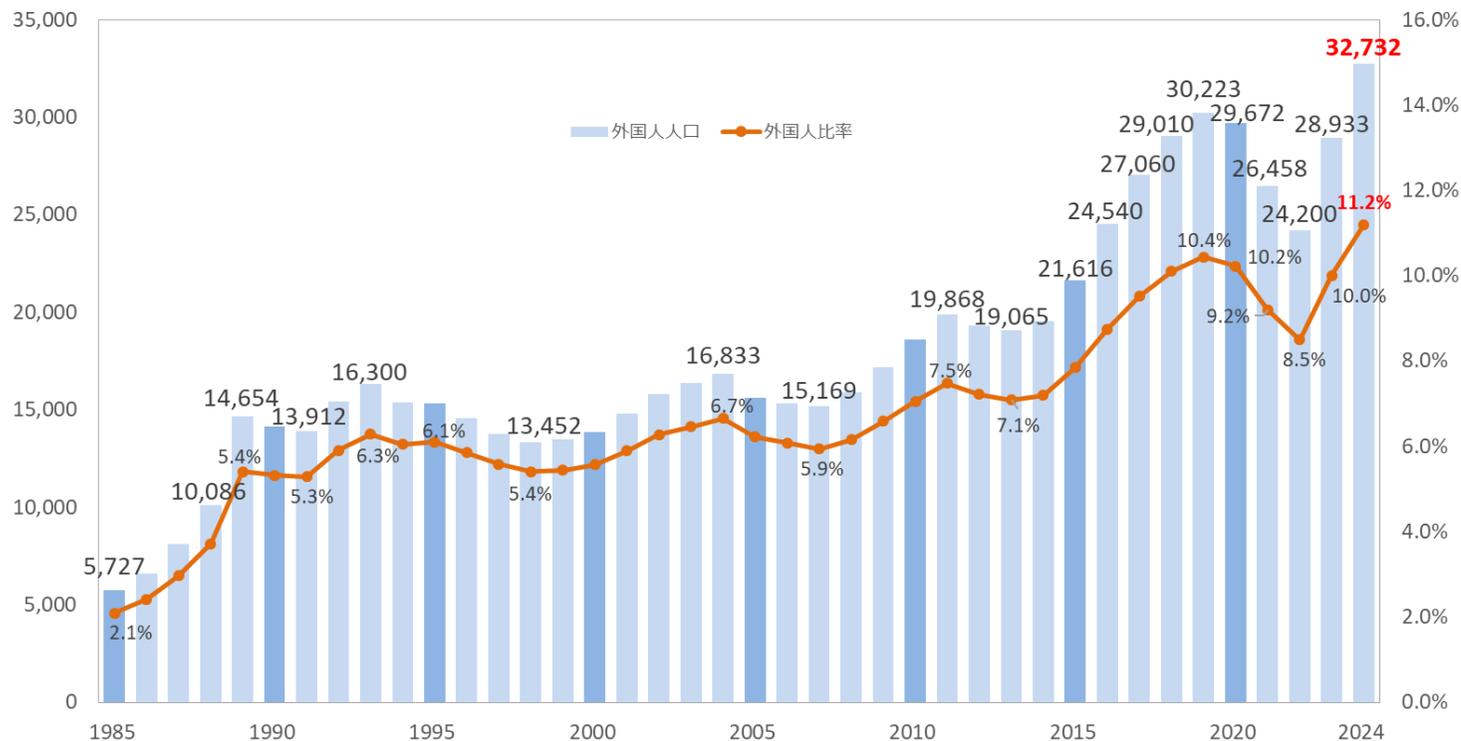


- ✓ 近年は外国人住民の増加と多言語化への対応のため、登録・派遣件数が増加傾向にある
- ✓ 令和元年・2年度は登録者数が緩やかに増えていたが、コロナの影響で令和3年度の登録更新者が減った為、登録者数も減少した

豊島区の外国人人口

豊島区の総人口に占める外国人比率

豊島区内の外国人人口の変化



出典：企画課 多文化共生グループ作成資料

【参考】  
2024年6月現在  
34,470人 (11.7%)

【23区の状況】

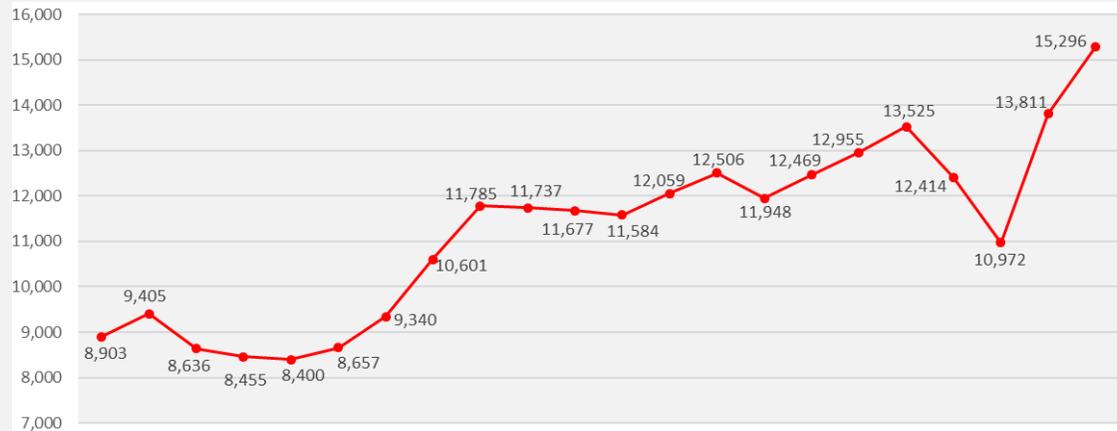
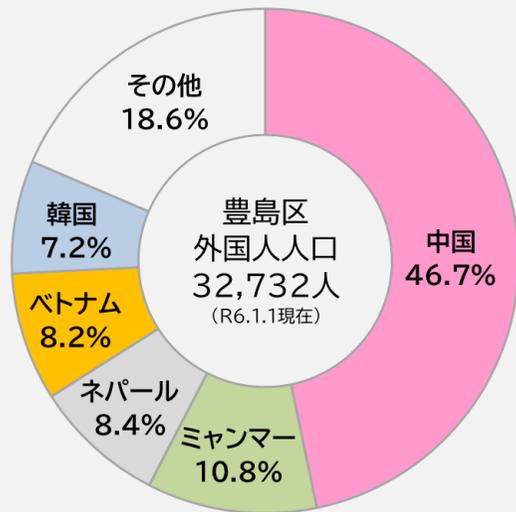
(外国人人口)

- ①新宿区
- ②江戸川区
- ③足立区
- ④江東区
- ⑤豊島区

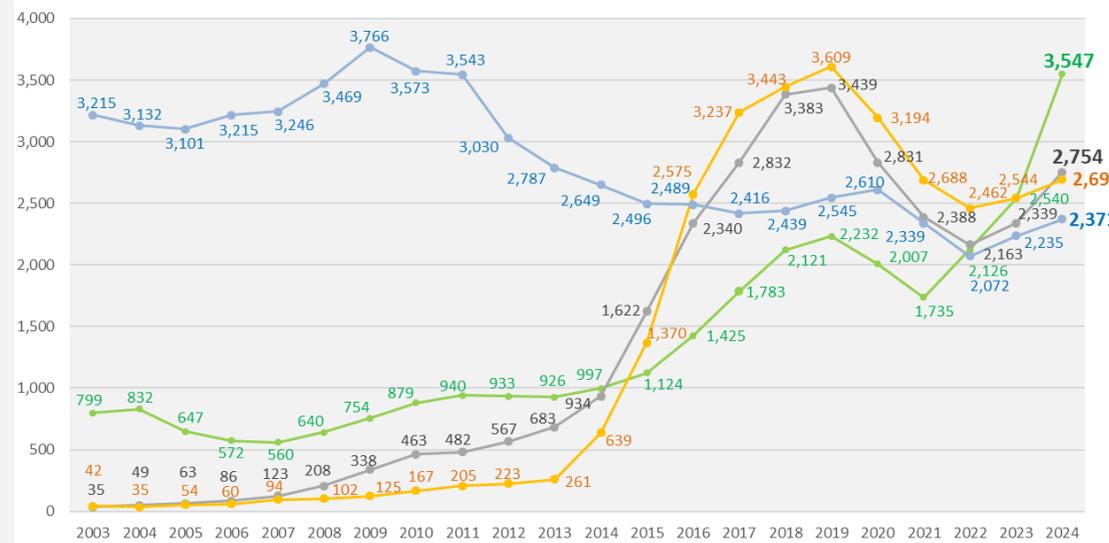
(外国人比率)

- ①新宿区
- ②豊島区
- ③荒川区
- ④台東区
- ⑤港区

✓ 豊島区の外国人人口は年々増加を続けており、2024年は人口・比率とも過去最多(人口約3万2千人、比率11.2%)



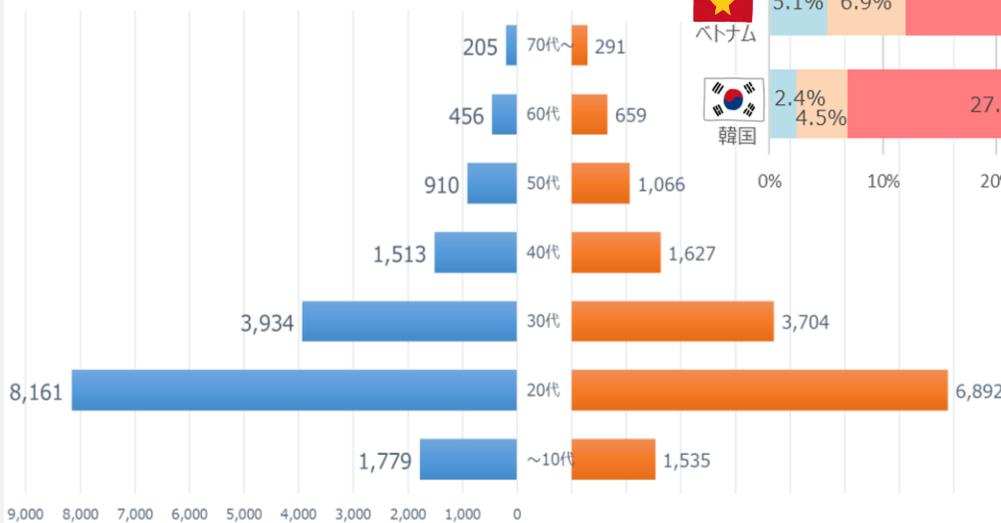
1	中国	15,296人	46.7%
2	ミャンマー	3,547人	10.8%
3	ネパール	2,754人	8.4%
4	ベトナム	2,691人	8.2%
5	韓国	2,371人	7.2%
6	台湾	1,186人	3.6%
7	米国	533人	1.6%
8	フィリピン	508人	1.6%
9	フランス	357人	1.1%
10	ウズベキスタン	346人	1.1%
-	その他	3,143人	9.6%
	134か国・地域	32,732人	



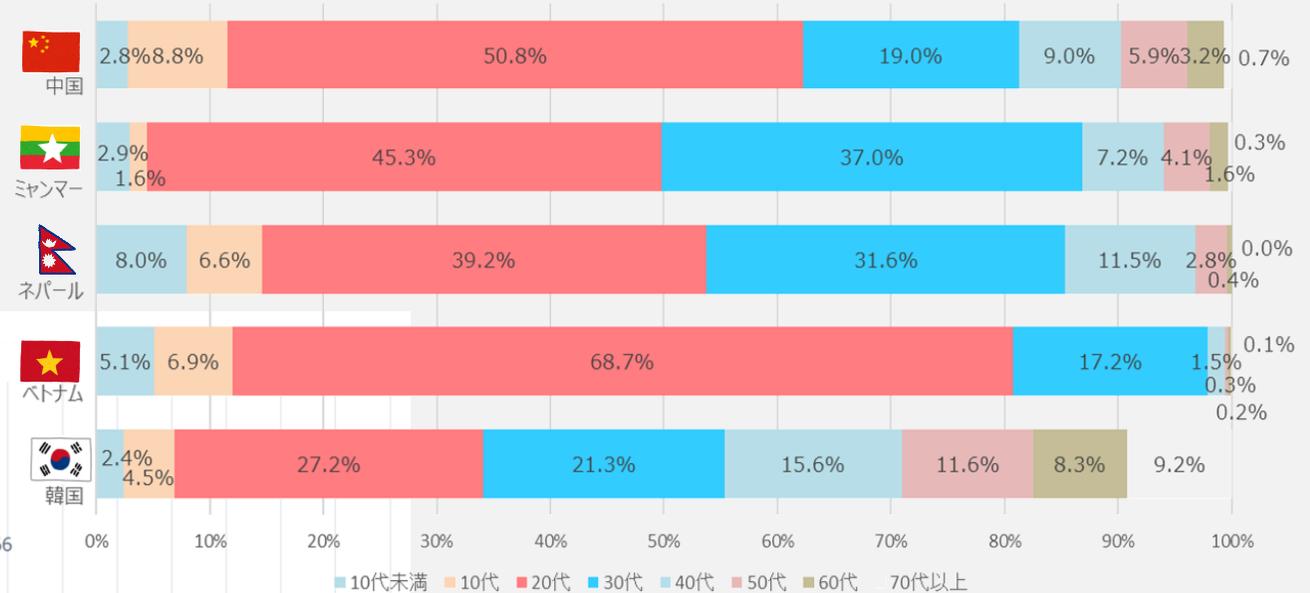
出典：企画課 多文化共生グループ作成資料

✓ 中国が最も多く、ミャンマー、ネパール、ベトナムと続く。

男女別・年齢別外国人人口 (R6.1.1)

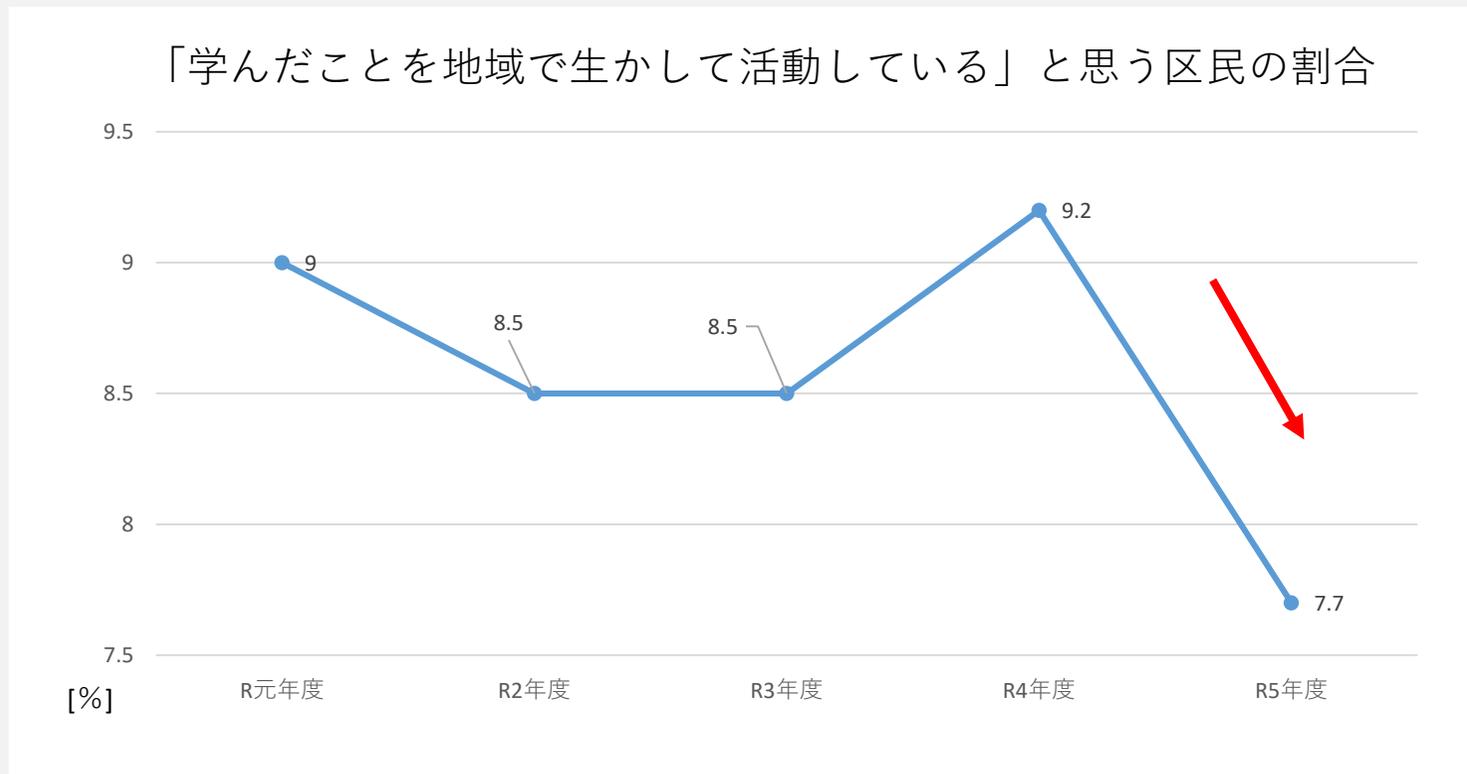


国別年齢割合 (人口上位5か国)



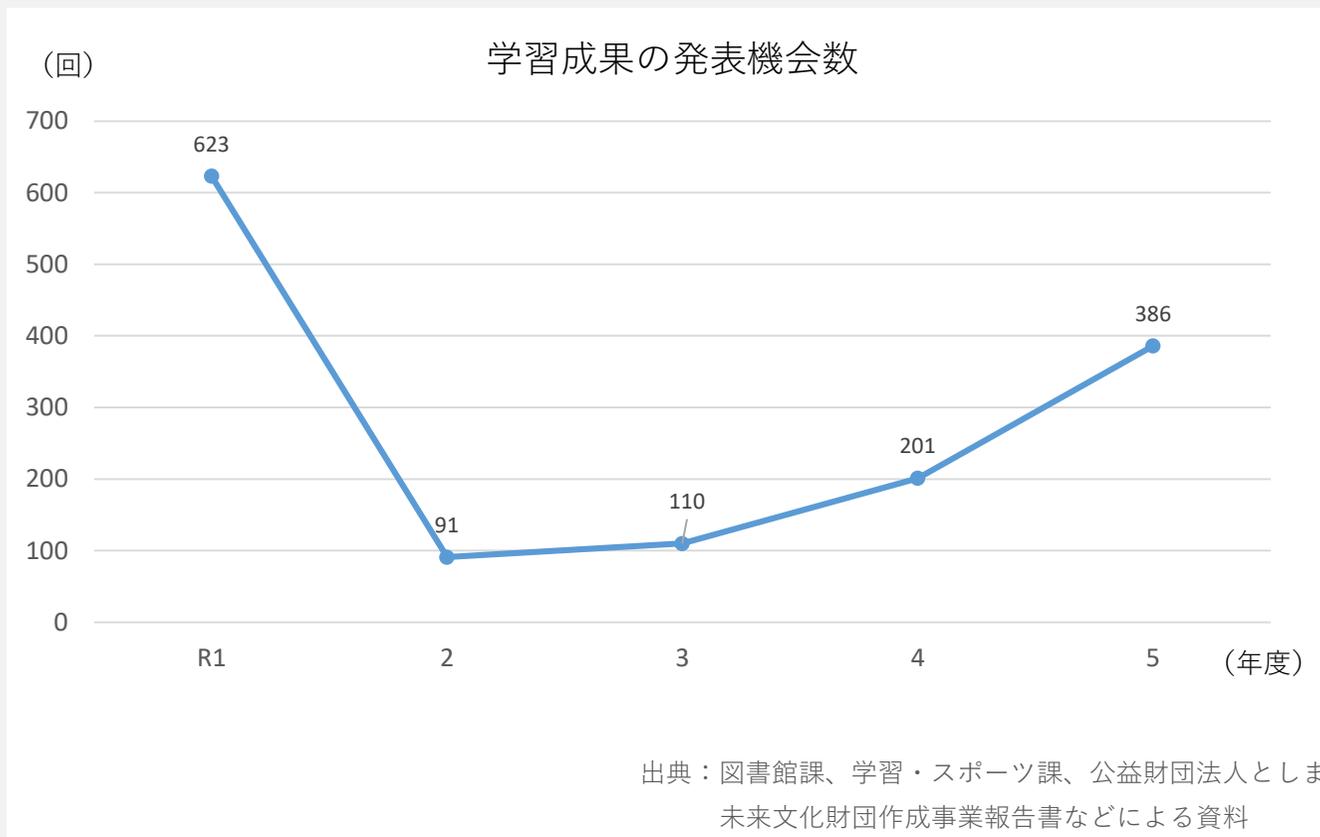
出典：企画課 多文化共生グループ作成資料

- ✓ 男女とも20代が最も多く、年代が上がるほどに減少
- ✓ ネパールは10代以下の割合が最も高い
- ✓ ベトナムは20代が7割
- ✓ 韓国は年齢層に大きな差はない



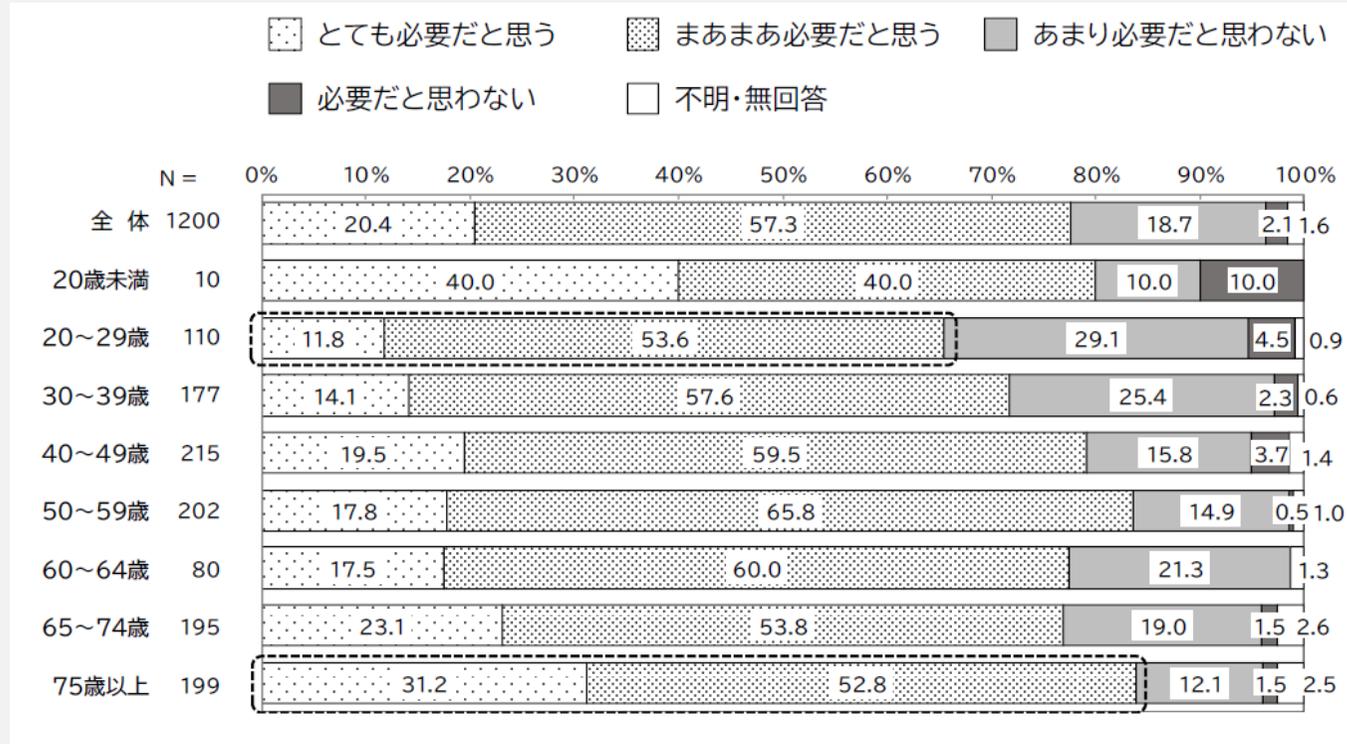
出展：区民意識調査結果

- ✓ 学びの成果を地域に生かす区民の割合が減少している。



✓ コロナ禍で一時減少していたが、回復傾向にある。

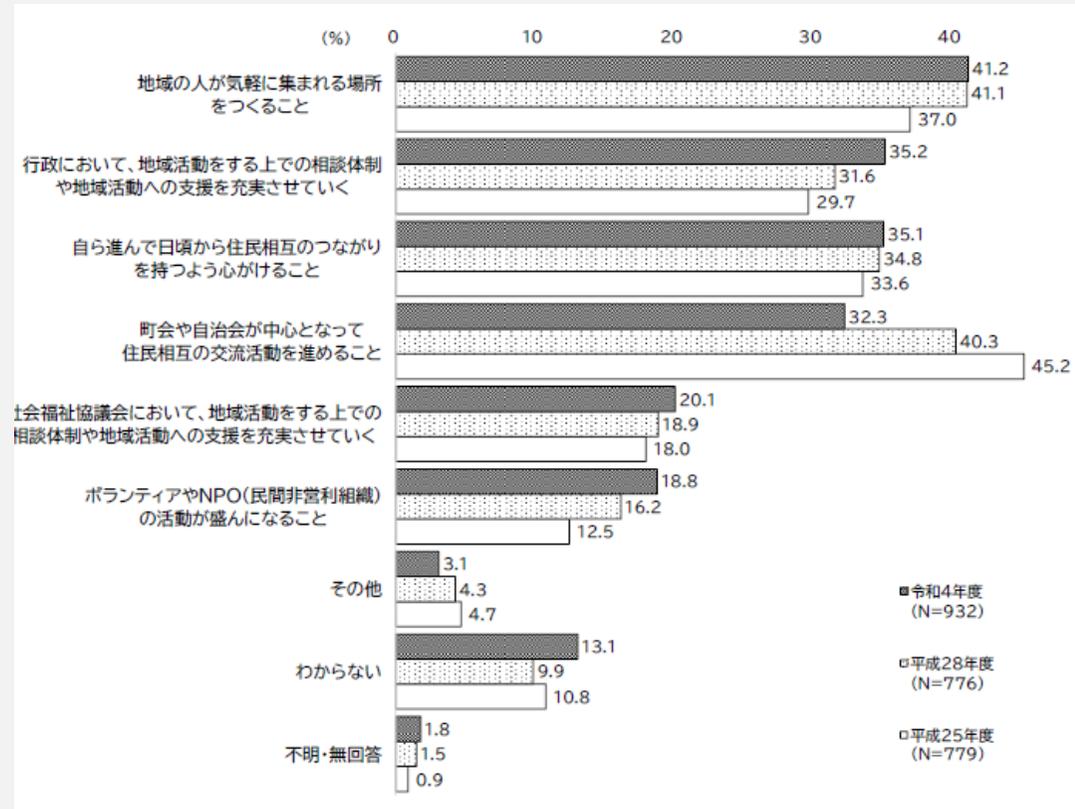
地域で起こるさまざまな生活の課題について、住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりすることは必要だと思いますか。（〇は1つのみ）



出展：豊島区地域保健福祉計画改定のための区民意識・意向調査

- ✓ 多くの年代で「必要だと思う」が7割以上を占めている。
- ✓ 特に75歳以上が最も多く84%であり、20～29歳では他世代と比べて低く65.4%となっている。

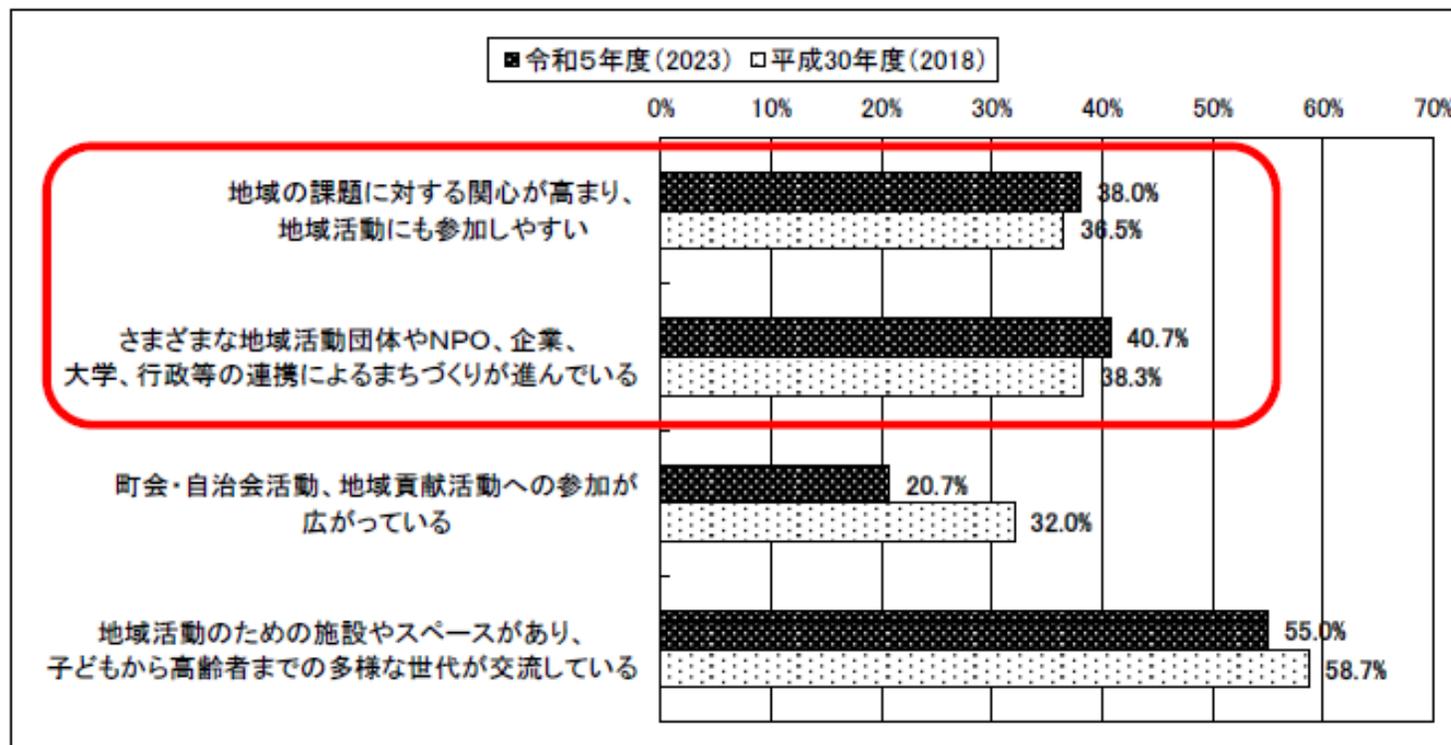
住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりするためには、どのような取り組みが特に必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



出展：豊島区地域保健福祉計画改定のための区民意識・意向調査

- ✓ 「地域の人が気軽に集まれる場所をつくること」(41.2%)が最も多い
- ✓ 「行政において、地域活動をする上での相談体制や地域活動への支援を充実させていく(35.2%)」は、前回から3.6ポイント増えている。

図表 2-4-9 「参画・協働」に関する設問の回答結果の比較



出展: 令和5年度協働のまちづくりに関する区民意識調査

- ✓ 「地域の課題に対する関心が高まり、**地域活動にも参加しやすい**(36.5%⇒38.0%)」は前回から**1.5ポイント増**となっている。
- ✓ 「さまざまな地域活動団体やNPO、企業、大学、行政等の**連携によるまちづくりが進んでいる**(38.3%⇒40.7%)」は前回から**2.4ポイント増**となっている。

※詳細は別紙「参考資料1」のとおり

令和6年6月25日、中央教育審議会総会にて、「地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方と推進方策について」の諮問がされた。

社会教育による「学び」を通じて、持続的な地域コミュニティの基盤を形成することや、**社会教育施設の機能強化、社会教育人材の養成**及び活躍促進等を通じた社会教育の充実を図る必要があるとして、社会教育の新たな在り方を見直し、社会教育が果たすべき役割、担い手である人材、その活動、国・地方公共団体における推進方策等について今後審議が行われる。

#### 【主な審議事項】

- ① 社会教育人材を中核とした社会教育の推進方策
- ② 社会教育活動の推進方策
- ③ 国・地方公共団体における社会教育の推進体制等の在り方

※詳細は別紙「参考資料2」のとおり

- 孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は4.8%
- 孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、20歳代から50歳代で高い
- 男女別にみると、男性が5.3%、女性が4.2%
- 男女・年齢階級別にみると、男性では30歳代及び40歳代、女性では20歳代で高い
- 現在の孤独感に影響を与えたと思う出来事をみると、孤独感が「しばしばある・常にある」、「時々ある」又は「たまにある」と回答した人(孤独感が比較的高い人)では、「家族との死別」を回答した割合が23.3%と最も高く、次いで、「一人暮らし」(19.5%)が高い